

おはなし トレイン



1・2年生

2021年12月



『トラのじゅうたんになりたかったトラ』

ジェラルド・ローズ/文・絵
ふしみ みさを/訳
いわなみしよてん
岩波書店

インドのジャングルに、としをとってえものがとれず、おなかをすかせたトラがいました。ときとき見に行くおうさまの宮でんでは、みんなが楽しそうにごはんを食べています。うらやましく思っていたある日、トラはじゅうたんのふりをして、宮でんに入りこみます。でも、本物のトラだとわかったら？ 2022年は寅年です。トラが出てくるお話 をさがすのも楽しいですね。

3・4年生



『トムと3時の小人』

たかどの ほうこ/作
ひらさわ ともこ/絵
平澤 朋子/絵
ポプラ社

つとむが古道具屋さんで見つけたのは、古くさくてあかほんひょうしきんもじの赤い本。表紙には、金のくるくるした文字で「トムと3時の小人」と、あります。図書館で同じタイトルの本を読んでみると、そこにはトムという男の子と、ハト時計に住む小人との出会いとわかれの物語がかかれていました。読めば読むほど本の世界に引き込まれる、不思議なお話です。

5・6年生



『野生のロボット』

ピーター・ブラウン/作・絵
まえざわ あきえ/訳
前沢 明枝/訳
福音館書店

あらしのあと、無人島に流れ着いたロボットのロス。起動したロズの目の前には、大自然が広がっていました。ロズは人工知能で、島の状況や動物たちの言葉を自ら学習し、サバイバルのすべを身につけていきます。けれど、動物たちはロズのことを怪物よばわりして関わりたくしません。きびしい自然世界で、ロズはどのように暮らしていくのでしょうか。



『くしゃみ おじさん』

オルガ・カブラル/作
 こみや ゆう やく
 小宮 由/訳
 やまむら こうじ え
 山村 浩二/絵
 いわなみしよてん
 岩波書店

家のうらにわで、うさぎとねこといぬがしあわせにく
 らしてました。ある日、荷馬車で通りかかったおじ
 さんが大きなくしゃみをしました。「ヒヤツツクシヨ
 ン！」すると、みんなへんでこなすがたに大へんし
 ん。こまった三びきは元にもどしてもらおうと、おじさ
 んをさがしにでかけます。くしゃみのたびにおこるで
 きごとに、さいごまでハラハラさせられます。



『なまはげ』

いけだ まきこ ぶん
 池田 まき子/文
 はやかわ じゆんこ え
 早川 純子/絵
 ちようぶんしゃ
 汐文社

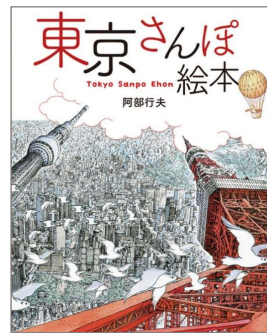
「泣く子はいねが〜。言うことを聞かぬ子はいねが
 〜」恐ろしい顔をして家々を練り歩く「なまはげ」。
 「男鹿のナマハゲ」はユネスコの無形文化遺産に
 登録された、秋田県男鹿半島の伝統行事です。鬼
 であるにもかかわらず、なまはげはなぜ「守り神」
 と言われているのでしょうか。その正体とは…。現
 在も伝承される行事の由来がわかる絵本です。



『おじいちゃんとの最後の旅』

ウルフ・スタルク/作
 キティ・クローザー/絵
 ひしき あきらこ やく
 菱木 晃子/訳
 とくましょてん
 徳間書店

足の骨を折って入院しているおじいちゃんは、口が
 悪くて怒りっぽいので、周りの人に嫌われています。
 けれど孫のウルフはおじいちゃんが大好き。島の家
 に行きたいというおじいちゃんの願いを叶えるた
 め、ウルフはウソをついて病院を抜け出す計画を立て
 ました。おじいちゃんが家族との思い出を振り返
 る、たった一晩の秘密旅行の始まりです。



『東京さんぽ絵本』

あべ ゆきお さく
 阿部 行夫/作
 ぶんけいどう
 文溪堂

さあ、ページを開いて東京めぐりを始めましょう。東
 京駅、秋葉原、神田明神、東京の名所が次々に登
 場します。見開きごとのさんぽメモも必見です。江
 戸時代に、この地が日本の中心となってから 400
 年。東京は、様々な文化を取り入れながら、首都と
 しての歴史をきざんできました。知っているようで知
 らない東京を探してみたいはかがでしよう？